

●緩和ケア皮下投与関連薬剤

実施内容	静脈ルート確保困難な患者における皮下投与
対象患者	静脈ルート確保困難な患者
承認日	2025年12月12日
実施期間	承認後永続的に使用
目的・概要	<p>静脈ルート確保困難な患者について、注射製剤の使用が必要な場合、他の手段が困難であれば、できる限り患者の負担や侵襲を軽減する方法として皮下投与を実施する。</p> <p>皮下投与が可能な薬剤として、使用実績が報告されている。以下の薬剤を対象とする。</p> <p>生理食塩水、モルヒネ、オキシコドン、ヒドロモルフォン、フェンタニル、ケタミン、リドカイン、ハロペリドール、ミダゾラム、フェノバルビタール、アンピシリソ、セファゾリン、セフトリアキソン、セフタジム、セフェピム、ティコプラニン、オクトレオチド、ブチルスコポラミン、ファモチジン、メトクロラミド、クロルフェニラミン、グラニセトロン、デキサメタゾン、ベタメタゾン、プレドニンゾロン、フロセミド、レバチラセタム、トラネキサム酸、アスコルビン酸、ソルデム3A、ソルデム1、</p> <p>参考文献:症状緩和のためのできる!使える!皮下注</p>
予想される不利益と対策	<p>【不利益】投与部位における発赤や硬結などの皮膚障害</p> <p>【対策】留置針戦士部位の観察。必要時留置針の刺し替えや他の部位への刺し替えを検討する。留置針はプラスチック製のものを使用し、リスクが高い患者であればステロイド軟膏を予防的に塗布することを検討する。また、皮下投与で問題が起きる場合は、静脈ルートの確保について再度検討する。</p>
問い合わせ先	東京慈恵会医科大学附属第三病院 検査治療を担当している診療科 TEL: 03-3480-1151 (代表)